

令和6年度地区懇談会（登別温泉地区） 議事録（概要）

令和6年10月24日（木） 14:00～16:00

コミュニティセンター泉和園 出席者13名

4. 市からの情報提供：

再生可能エネルギー発電事業と地域との調和に関する条例策定について

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 昨年の地区懇談会の場で、3か所ほど設置予定地があるとの話があったかと思うが、今回の条例策定でそれらを抑制することはできるのか。

回答：市民生活部

- ・ 条例が施行され、それ以降に新規で作る施設については全ての条例の内容が適用される。一方、それ以前に工事が始まった部分については条例の内容を全て適用するというのは難しいと考えられる。例えば施行時に既に稼働しているものについては条例の一部分を適用できる、建設中のものについては別の部分が適用できる、といったような想定をしつつ策定作業を進めているところである。条例には遡及適用ができないという原則があるので、着手されてしまっている部分については、なかなか適用するのが難しいというのが現状であることをご理解いただきたい。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 既に工事が始まっているところがあるという事か。

回答：市民生活部

- ・ 市民生活部では把握していないが、現状、どの段階であるか、はっきりお答えした方が良いのであれば、お調べして後ほどお答えする。

回答：市長

- ・ 私自身、はっきりとは把握していないが、情報が明確となった段階で、本日出席されている皆さんにお伝えできるようにする。

4. 市からの情報提供：温泉供給事業について

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 奥の湯の湯量は減っているのか。

回答：観光経済部

- ・ 水位がなかなか上がらない状況が今も続いている。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 給湯事業についてはどこかに委託しているという事でよいか。

回答：観光経済部

- ・ 維持管理については、登別温泉株式会社に委託している。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 現役時代、給湯事業に3年ほど携わったことがあるが、湯量が減った場合は大湯沼の方から引いた管を使うはずだが、それは利用したのか。

回答：観光経済部

- ・ 昨年から今年の春頃、大湯沼の湯を入れたことがあるが、湯温が足りなかったり、泉質があまり好評ではなかったという状況があったため、今は奥の湯のみでやっている。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ そのような状況であれば仕方がない。このまま湯量が足りず、新登別方面の時間制限が行われた場合、今は旅館はなく個人の住宅のみだと思うが、了解は得られるのか。

意見：新登別町内会

- ・ 使っている側から言うと、今は湯が途切れることはないため、水位が下がっているといっても足りている範囲だと思っている。問題は電気料金のことであり、ポンプの稼働する時間を短くしようということだと町内会としては考えている。時間制限を行って止めた場合でも、一般の方はそれほど支障はないと聞いており、今まで5軒あった旅館も今は1軒のみ、その1軒も客は年に1～2回ほどしか入れず、他の期間はオーナーの別荘として使われている。温泉供給事業は料金的に20年、30年前から赤字だったので、やむを得ないことだというのは皆さん承知のことである。

質問：登別温泉日和山町内会

- ・ 温泉に関連しているのかわからないが、年に1回くらい、地響きするくらいのものですごい爆発音がする。温泉地区でどこかの大学が研究をしていたと思うが、市に爆発音に関する情報は入っているか。近所の人でもすごい音を聞いたと言っており、地獄谷に異変が起きているのではないかと心配している。

回答：観光経済部

- ・ 恐らく火山活動ではないかと思われる。周辺では北海道大学が定点観測をしていたかと記憶しているが、観光経済部には情報は入っていない。

意見：新登別町内会

- ・ 上登別町でも、町内の人達の中で、自衛隊が演習でもやっているのではないかと、大砲の音ではないかと噂していた。

回答：市長

- ・ 確認する。

質問：カルルス町内会

- ・ 温泉の資源量が減少しているという話が温泉事業者や利用者から聞こえてくるが、いよいよ、温泉地を維持できる量が確保できなくなってきたという話をここ数年聞いている。市で管理している奥の湯の資源量の減少が、一過性のものなのか、永続的なものなのか、市としてはどのような認識を持っているのか。関連する調査を行う予定があるのか、お伺いしたい。

回答：市長

- ・ 室蘭の气象台、気象庁でも火山の観測をやっていてとお聞きしている。我々がコンサルタントにお金を出して調べる方が良いのか、それとも気象庁が持っている情報だけでも湯量の将来性が見えるのかというのは、まずは聞いてみたいと思う。現時点ではその情報に関して全く情報がなく、市でもお金を掛けて調べる考えがあるのかという段階でもない。気象庁からは情報をいつでも聞ける状態にはなっているので、まずは確認する。

質問：カルルス町内会

- ・ 資源量が減少傾向にあるのであれば、この温泉地域の観光経済、もしくは登別の観光都市という、観光を一大産業として実施していることだと思うので、市がそういう調査をすべきなのか。地獄谷は自然公園法で高い規制がかかっている地域のため、基礎調査をしていく時期に入ってきたのではないかと。資源量が無くなることで上登別の温泉の供給もだんだんままたなくなる。今後、新しい観光ビジョンを作る上で、温泉の根幹である泉源という部分をどう考えていくのかという点をお伺いしたかった。

回答：市長

- ・ (仮称)観光振興ビジョンを作るにあたり、地域経済のことがかなり関わってくる。これを策定するまでの間、色んな方向性を考える中の一つとして、もし湯量が半分になったら、少ししかとることができなくなった場合、登別温泉観光についてというのが課題に挙がった。その場合、元々少ないという前提でシミュレーションするため、恐らく、これから話し合いになると思う。ただ、湯量が減っていくというような数値の動きがはっきりしないうちは、その点を観光振興ビジョンに盛り込むべきなのかというのも流動的になる。カルルスの方では湯温の関係等、湯量が絶対関係するため、上登別の方では貯湯槽があるので、ポンプの稼働時間を短くしても、槽の湯が無くならない程度に地域住民の皆さんが使って

いただければ、今まで通り使えることは間違いない。その点はルール設定で、24 時間出しっぱなしではなく、使う時だけ出すような、ルールをお互いに考えていきたい。登別温泉もカルルス温泉も、お湯が無限ではないという前提から、どのような使い方をすれば各ホテルでお湯をしっかりと利用出来るのか考えたい。自分が聞いている範囲では、大湯沼は水位が 20 センチ以上下がっているとのことで、雨の多いまちであるため、表流水と混ざりちょうどいい温度になっていくのが登別温泉の源泉の仕組みだが、今年は雨が少なかった。それが相まって、湯温は高いが水位が下がっているのではないかと勝手に推測している。ただ、それが毎年続けば、これが普通の水位になる。各ホテルも常に流しっぱなしというのはもう無理だという話になれば、これからの使い方について、みんなが平等になるように議論しなければいけないという話になるかと思う。非常に大事なことで、観光振興ビジョンに係る問題であるため、しっかり調べたい。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 湯量調査自体は毎年やっているのではないか。

回答：観光経済部

- ・ 維持管理を行う中でやっていると思うが、先ほど市長が述べた水位が 20 センチ下がっているという話は、9 月に地質の関係で知見を有している方に協力をいただき、奥の湯の湯量がどうなっているのか調べた結果、平成 28 年と比べて 20 センチくらい下がっているという内容だった。市の方でも状況をまず把握したかったので、調べたものとなっている。また、実際に雨によって沢水が入り込む量が変わったり、下から湧いてくる量、これは調べるのがなかなか難しく、過去に調べたデータを整理し、過去からの水位がわかるかまとめたいと考えている。ただ、自然に湧出しているもので、専門家の方でも、将来を見通すのは難しいという意見もある。

意見：新登別町内会

- ・ 私は登別に住んで 30 年になるが、この時期、奥の湯から溢れたお湯が大湯沼に流れて行っているような状態だった。今は溢れているような状態でもなく、前は柵の近くまで行けばかなりの熱風だったが、今は柵の近くまで行っても熱風で近寄れないような状態でもない。当時から比べるとずいぶん水位が下がっている気がする。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 湯量については、登別温泉株式会社もかなり減っているという状況は知っていると思う。

回答：市長

- ・ 登別温泉株式会社のカも借りながら、定点観測ができるようにしていきたい。

5. 地域の共通課題に関する懇談：泉和園廃止後跡の計画・検討について

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 今の説明では、建物付きでの売却予定で進んでいるということか。

回答：市民生活部

- ・ 現段階では、まだ庁内での利活用の確認作業をしているところである。計画的には建物付きが前提であるが、公共施設として使わないという結論に至り、民間に売却となった際には、実際に話し合いの上で、予定通り建物付きとなるか、解体費を含めての売買となるか、その時点でまた検討することになろうかと考えている。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 買い取りたいという話があるわけではないのか。

回答：市民生活部

- ・ 今の段階ではない。

5. 地域の共通課題に関する懇談：

紅葉谷団地・見晴団地の老朽化、廃止後跡の計画・検討について

意見：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ このまま廃墟とならないように計画していただきたい。また、温泉地区の住民がだんだん少なくなっていく中で、この住宅を廃止されると、また温泉の住民が少なくなる。その辺を考慮して跡地について考えていただきたい。

意見：登別温泉湯の花町内会

- ・ 温泉ばかりではないと思うが、働く人が減っており、外国の人がたくさん入ってきている。今はホテルで用意している社宅を使っているようであるが、これからどんどん人が少なくなって、外国の方がもっと登別温泉で働きたいという場合に、こういう公共の住宅があると来やすくなるのではないかと。温泉地区に、そういった住宅を新設するようにお願いしたい。

回答：市長

- ・ 現在、外国人の方を雇用しやすいよう、また、生活において近隣の町内会や近所付き合いで問題が起きないように、課題整理を市で話し始めたところである。その時には商工会議所からも外国人労働者の居住環境の充実という要望があった。また、三愛病院の例では、ベトナムの方が来られた際に市営住宅でなんとかならないかと言われ、古い市営住宅なら誰も入らないとも言われた。つまり、今の状態では無理だということがわかっており、壊すものは壊し、除却するという事を決めている。ただ、事務局長の話では、団地が無くなると更に住民がいなくなるのではないかとというご懸念があるのだと思う。今の団地に住ん

でいる人数を考えれば、本来はどちらか一方に全員入ってもらい、入っていない方は壊すという事でも良かった。しかし、その想定よりももっと状態が悪く、住民の皆さんに別の団地に移ってもらえるくらい住んでいない。本来は残すべきものは残したいと思っているが、住んでいる人がいない実情を見ると、老朽化していきただけであり、お金があるうちに除却した方が良いかという思いもあり悩んでいる。ところが今、公共施設等総合管理計画と公共施設等個別施設計画のとおり解体できるかどうか、予算執行状況を考えると、令和11年以降に苦しくなってくる。そのため除却の棟数を減らしていく計画になるかもしれない。これから1年かけて、全体的なバランスを見て少しずつ目減りさせる可能性もあるため、流動的ということで認識いただければありがたい。

意見：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 今の市長の答えだと、5年後くらいに苦しい時期に入ってくるということはわかった。団地自体は中登別で30%くらい、見晴だと56.3%しか入居していないが、これが廃墟になるのか、壊せるのか知りたい。そのままの形で廃墟になると、周りの住民の心配事が増える形になるので、その辺も考慮に入れてほしい。

回答：都市整備部

- ・ 廃墟というのは環境にも悪いため、例えば、ホテルで雇われている外国人の方が住むところがないということであれば、ホテルに丸ごと売却する、賃貸するという手法、また、ブロック積みの住宅については、豊浦町などでリフォームを実施した事例もある。市内には同様の建築物として教職員住宅などがあり、使い方というものを色々と考えなければならぬと思っている。確かに、ホテルの関係者から、外国人の方が住むところがなく困っているとお聞きしている。先ほど市長も言っていたとおり、色んな方法があるかと思うので、ただ廃墟にすることだけはなるべく避けたいと考えている。

意見：登別温泉湯の花町内会

- ・ 私の知り合いで、鹿児島島から登別に働きに来ている若い方がおり、登別に移住したいと言っている。この間、市にも電話して公営住宅を借りられるかを聞いてみたという話もしており、その話を聞いた時に希望を持った。若い方が、登別を素晴らしいと言っていることを聞き、登別ももっと全国的に移住のアピールをすれば良いのではないかと思った。年配の方も良いが、若い方が来て、もっと登別を活性化し、若い方の考え方を取り入れると、また違った登別の方向が見えるのではないかと思う。

回答：総務部

- ・ 登別市も、移住には積極的に動いているところである。ポータルサイトを利用したPRや、「ちょっと暮らし」という、市内に設けた拠点に短い期間から長い期間まで、利用者に合わせて形で登別の生活を体験してもらえようような仕組みも作っているところである。雇用先や住まいなど、いろいろなことを判断基準として、移住を検討されるものだと思う。

ており、すぐに移住していただくというのは難しいことかと思うが、登別には温泉もあり、地名としても有名というところを生かしながらPRを進め、移住まで行かなくても関係人口、何回も足を運んでもらって登別の良さを知っていただくというところから始め、ゆくゆくは定住・定着に繋げていきたい。

- ・ また、外国人労働者について、総務部では多文化共生の観点から進めており、先ほど市長から話があったとおり、商工会議所より外国人労働者の居住環境の充実という要望を受けているところである。直接的には観光経済部や都市整備部と協力しながら、例えば市営住宅、通常は結婚されている方でなければ入居できない要件になっているが、目的外使用という制度を国の方からいただきながら、その外国人労働者が単身であっても、1人ないしは会社の同僚と2人、3人といった形で居住してもらうことが出来ないかと検討しているところである。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ 外国人労働者の住居環境の話があったが、現在、寮や公営住宅に2世帯入っているが、ゴミの分別をしないことで、ゴミ箱がぐちゃぐちゃになっているのが現状である。今はシルバー人材センターにお願いして分別の処理をしているが、外国人労働者の分別は袋自体、正規のものを使用していない。ホテル・旅館には月に1・2度は必ず分別の指導をしているが、ようやく1つの温泉施設が外国人向けの看板のようなものを貼っていただいたところである。他はされていないので都度注意をしている。先日は他の温泉施設等の社員が変わったのでお願いに伺った。クリンクルセンターの方で外国人労働者を集めて説明会をするなど、言語の関係もあるので難しいかとは思いますが、それが可能なのか教えていただきたい。

回答：市民生活部環境対策室

- ・ ゴミの分別については、度々お話をいただいているところである。今提案があったような説明会は可能なので、説明する場を作っていただければ、実施したいと思っている。別途協議させていただきたい。

5. 地域の共通課題に関する懇談：路線バスの廃止のお知らせについて

意見：新登別町内会

- ・ 上登別町に住んでいるので助成を利用したいと思い、タクシー会社と話をしたが、まだ市からタクシー会社へ決定したという通知は来ていないため実施していないという話だった。後日、市から皆さんに割引のチケット等が届いて、何月から開始しますというような連絡があるのではないかということだった。また、住民からの意見としては、誰も乗っていないのだからやむを得ない、という意見であり、年を取ったときには買い物にはタクシーで行きたいという話だった。今までは、バスに乗るためにバス停まで行かなければならなかったものが、今度はタクシーが自分の家まで来てくれるから便利になる。

回答：市民生活部

- ・ 今回の制度のつくりとしては、あくまでも路線バスが廃止となったことによる制度としており、対象は、路線バスを利用していた方が第一条件となる。次に、免許や車をもっていない方という条件となる。旅館等の従業員の方も利用していたとのことであったため、従業員の方も利用できるようなつくりをしている。また、タクシー会社にお話を聞かれたという事であったが、予定としては次の25日発送の回覧板で、該当地区に回覧を発送する予定である。先ほど言った条件の方が対象となるので、条件に合う方は申請をとという内容をA4両面の形でお送りする。
- ・ 利用の想定としては、カルルスと上登別が発着地点であれば可としており、カルルスから温泉ターミナル、上登別から温泉ターミナルの料金をタクシー会社に聞いたところ、それぞれ2,400円、1,400円くらいとお聞きしたので、その半額を助成する制度設計となっている。従来のバスも1日平均1便1人乗っていないくらいの統計だったため、実際にこの制度を作っても、どれだけ活用していただけるか見通せないため、まずは1年間程度様子を見て、本当に必要な助成制度なのかどうかということ判断し、最終的に1年後に見直し、検討という制度設計をしている。

質問：カルルス町内会

- ・ 先日、温泉連町事務局長と打ち合わせをした段階では、市から制度設計や経過の説明が無かったが、たまたま昨日話があり、田中部長から伺った内容を担当の方からも説明いただいた。内容的には、市から情報提供をいただき、私からもお話をさせていただいたが、時間の無いところでうまく制度設計をしていただけたなと私の方では思っている。
- ・ カルルス路線の廃止について、カルルス地区としてはまだ他にも何点か懸念がある。まず、カルルス路線が無くなったことで、公共交通機関がない観光地になったという事が非常に観光地としてイメージダウンになっている。実際、私の旅館をご利用いただいているお客様、もしくは日帰りで来られる方々からも、もうカルルス終わりだね、とフロントで言われてしまい、ダメージは今後徐々に感じてくるのではないかと思っている。カルルスの各旅館では宿泊のお客様を登別温泉もしくは登別駅に送迎しているところもあれば、人員配置の関係でそれができないところもある。今まではなんとか路線バスで、という事で、コンベンション協会やバスターミナルで案内をしていただき、日帰りのお客さんがたまにバスを乗り継いで次の宿泊先へ行くという事もあり、無くなった影響が今後どのように出てくるのかというのは、私もわからない状況で、非常に怖いところである。
- ・ バス路線の廃止に伴い、スクールタクシーの関係も動き出したかと思うが、制度設計のため、運用が始まったばかりなので、今いただいた意見を含め改善の余地はあるかと思う。
- ・ 今後、冬を迎えるにあたって、登別カントリークラブ側からくる市道の除雪、登別の36号線から道道2号に入ってカルルスのスキー場までの道路は、今まで路線バス等もあり、除雪も比較的優先順位を上げていただいていたが、今回路線が廃止になったということになると、過去に私も建設管理部の方に何回か陳情に行っているが、バス路線が無くなると

落ちるよね、というのが意見交換の中であり、観光地として雪があるとなかなか難しい。これからインバウンドの方がレンタカーを利用して来ることが考えられるため、除雪状況が悪いと事故等にも繋がりがかねない。カルルス町内会としても、建設管理部には陳情しようと思うが、市の方からも声掛けしてお願いをしていただけるとありがたい。除雪に関しては、カルルスの町内の除雪もままならない状況で、私の会社の方でも全く業務外のことであるが、重機を購入して旧ホテル岩井のオーナーに除雪をお願いし、私も大型特殊の免許を取りに行き運転してというような感じで町内会としても努力しているため、その辺不都合の無いようにこれからもしていただきたい。

- ・ スキー場も路線バスが無くなったということで、市の方でスキー場の改修を予定されているという話は聞いているが、インバウンドのお客様、もしくは週末の登別市の小中学生のスキー場への交通手段が消えてしまったということになると、どのようにフォローできるか、観光経済部の方とお話しているところであるが、まだ協議中ということだったので、現状どのようなお考えか伺いたい。

回答：都市整備部

- ・ 道道2号線洞爺湖登別線というのは北海道の方で主要道道としており、夜間は通行止めになるが、何市何町も跨ぐ道路ということもあり、今後もしっかり除雪すると建設管理部に確認している。市道の方もしっかりと今までとおりにやっていきたい。

回答：市民生活部

- ・ スキー場に関しては、観光経済部が中心となって対応策を考えており、市民生活部も交通を担当しているので、連携しながら、オープンの時期に向けて検討を進めていきたいと考えているため、今しばらくお待ちいただきたい。

回答：観光経済部

- ・ 田中部長より話があったとおり、まだ検討段階である。ただ、スキーシーズン中には一定程度バスを利用していただいている方もいるということで、スキー場を改修し利用促進していくという観点からも、なんとかしていきたいと思っている。足を持たない未成年の方やインバウンドの方の利用も増えてきているため、その辺も含めて考えたい。

意見：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ カルルス路線は赤字路線であったため、市から300万円、400万円の負担をしているかと思うが、廃線になり、払わなくて済む赤字部分をどのようにカルルス地区に流用してもらえるのか聞きたい。また、市から旅館組合へ補助を行っているはずだが、カルルス旅館組合にはどのような形で補助を行っているのか。コンベンション協会とカルルスの関係、その辺の中身を聞きたい。

回答：市長

- ・ カルルス路線は不採算路線であり、おおよそ 400 万円ほど補助していたが、その部分をなにかカルルスに使えるかという話だったかと思うが、その一つが今回のタクシー補助であったり、スキー場のリフトの関係へ使用し、足りないくらいだった。カルルス全体としては、その 400 万円相当分は 1 年間当たり数千万円掛かっている経費の一部として使わせてもらいたいというのが正直なところである。

回答：観光経済部

- ・ 市としては、コンベンション協会が行う、さまざまな事業について、十分に検討を行いながら市からの助成金を使用していると認識しているため、カルルスにいくら使っているというようなお話しをできる立場ではないと感じている。ただ、何かの取り組みのために予算が必要ということであれば、何をしたいのか、いくら必要なのかということを決めなければ、話をするのは難しいだろう。
- ・ 先ほどの観光振興ビジョンのところでも話があったが、今、カルルスの 3 旅館の方々と市長も入り意見交換させていただいている。今後の第 4 期基本計画が令和 8 年からの 10 年間、10 年後のまちのあり方について、少しずつ意見交換を始めているところである。どんな街にしたいのか、そのためにはどのような取り組みが必要なのかなどを議論しながら、地域の要望等も含め、総合的に取り組みを検討し、その中でどのようなお金の使い道が良いのか検討していく必要があるのかと思う。

回答：市長

- ・ 明日、極楽通り商店街振興組合の皆さんと、これからの未来についての意見交換をする。入湯税の超過税率分や宿泊税はこのままで良いのか、入湯税を上げた分を登別温泉や登別駅で還元できるようなお金を回した方が良いのか、旅館組合や極楽通り商店街振興組合、あるいはコンベンション協会の運営費など。お金の使い方というのも、観光振興ビジョンの中には市が責任を持って行う部分とコンベンション協会へお願いする部分があると考えている。今いただいたカルルス温泉の振興、住んでいる皆さん方の生活、福祉、また旅館として生きていくための地域振興と、両面でお金を上手に使いれば一番良いかと思う。これからのお金の使い方は、なるべく見える化すべきだと考えているが、現時点でのコンベンション協会の使い方は私も見えない。コンベンション協会の役員の皆さまで、きちんと検討されているかと思うが、来年以降、しっかり考えなければならないかと思う。それが観光振興ビジョンに全て繋がっていくことになるため、ご指摘をいただきありがたい。また、本来は温泉連町も入っているべきかと思われるため、市連合町内会として入っている構図は良いが、代理として温泉地区連町の会長が出席しても、私は良いかと思う。

質問：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ カルルスの 3 旅館から当然、入湯税が入っていると思う。その入湯税の部分は入湯税懇談会の中で話されていくと思うが、カルルス地区に関してはどこで話をされているのかわからない。金額的にはいくら入っているのか、またその辺は調べているのか。

回答：市長

- ・ 調べている。また、2月の入湯税懇談会にはカルルスも出席していた。

質問：カルルス町内会

- ・ 2月の懇談会は登別温泉旅館組合と市との懇談で、カルルスは座らせてもらっただけ。元々はカルルスも登別の旅館組合と一緒にいた時期があったが50年ほど前に、当時、登別温泉の規模感とカルルス温泉の規模感で、会費の話になったらしい。収益率が全然違うので、登別温泉側が決めた金額ではままならないということで、カルルスに当時あった旅館6軒はそこから出た経緯がある。その経緯があるので、入湯税懇談会には呼んでもらえていない。

回答：市長

- ・ 一緒にやっているものだと思っていた。旅館組合の組合長と話をしたい。例えば登別温泉とカルルスで2回別々にやっていたとしても説明は同じ説明になるため、できるなら三者が一緒の方が良い。場所は本日の泉和園でも、登別温泉のどこかでも良いので、そのような形になるよう、観光経済部の方でしっかり調整させてもらう。観光振興ビジョンを作るには、今まであやふやになっていたところは明らかにしていく必要がある。教えていただいてありがとうございます。

意見：登別温泉紅葉谷町内会

- ・ カルルス地区の入湯税がいくらか、2,000万円なり3,000万円なり入っているかと思う。その部分を今の話の中での対応として考えてほしいということでお願いします。

意見：登別温泉湯の花町内会

- ・ テレビで闇バイトについて騒がれているが、犯人を捕まえたり追跡したりするのに防犯カメラが役立っている。登別温泉にはコンベンション協会、サツドラ、温泉市場に3台あるが、3台だけでは足りない気がする。近所の人々も次々と引っ越しや入院しているので人の目もない。

回答：市長

- ・ 明日の意見交換で、その話も入れましょう。入院しているがご存命の方や、人の住まわれない家の情報も、内々でも良いので知っておきたい。

意見：新登別町内会

- ・ 生活困窮者のためにということで商品券を購入するとプレミアがつくというような話をしてきたが、その日暮らしの人というのはそのような券を購入しに行くこともできない。本当に市が困っている人を助けるというのなら、困っている人たちに商品券を配った方が

良いかと思う。

- ・ 子どもが減っていくとたびたび話にあがるが、なんとかして子どもを増やそうとするのであれば、働く場所として中学校の跡地に商業施設を持ってくことや、工業団地を作るなど、たくさんある空き地を活用して乗り切らなければ毎年毎年少子化が進んでいく。ある市には婚活をするような窓口があって、男女が知り合う機会を市がどんどん作っていると聞いている。そのようなところまで考えていかなければならないと思う。
- ・ 上登別町の敷地は、広大な土地を業者が買い、その買った敷地の一部しか稼働していないため、順次、敷地はソーラーにしていくのだと思われる。また道路側に木を植えろと言われどんどん植えているが、植えては鹿に喰われ、植えては鹿に食われとなかなか生育が進んでいない。そのような状況でも、一生懸命やっている人もいるので、あんまりソーラーの業者をいじめるようなことはどうかなとも思う。返事はいらませんが、頭に入れてほしい。